

連載を終えて

ほとんどの読者は気づいていないと思うが、この連載のタイトルの下には小さく「Human History for Technological Innovation」と書いてある。技術そのものよりも、どんな人がどのような思いで開発したのか、ということテーマにしたからである。とはいっても、それぞれの工法に興味深い話があるかどうかは取材してみなければわからない。ではどうやって取材する工法を選ぶのか？ 自分がその工法を「おもしろい」と思うことしか判断基準はなかった。

各回の取材では、担当技術者の皆さんの貴重な話を聞くことができた。そ

のなかで、多くの方が人と人の出会いや、つながりを強調された。もちろん開発がうまくいった理由はほかにもいろいろあるはずだが、技術者の資質、人間関係を含めて、やはり技術は人なのだと感じた。そして、この英語タイトルは間違っただけで胸をなで下ろしている。なお、この連載は学会ホームページにおいて、写真をカラーにして掲載されているので、ご覧いただければ幸いです。
(喜多直之)

編集企画主査 喜多直之

編集企画担当・・・S班

技術開発ものがたり 連載一覧

掲載号	タイトル	工法名	分野
2009年	9月 開発を軌道に乗せた決断	シートパイル基礎	基礎構造
	10月 困難のなかにこそ技術開発あり	スーパーウェルポイント工法	地下水処理
	11月 偶然の出会いが生んだ逆転の発想	EIEN	コンクリート
	12月 技術への熱い思いが形に	内巻きスパイラルRC柱	RC構造
2010年	1月 コンクリート表面を美しく	ピカコン	施工器具
	2月 向かい風はある日突然追い風に	URUP工法	シールド
	3月 化学者の発想で鋼橋を守る	インパイロワン工法	塗装
	4月 信頼と期待に応えるために	KUMONOS	測量
	5月 都市に生きる樹木のために	パワーミックス工法	舗装
	6月 「実物大」の利点を最大限に生かす	E-ディフェンス	耐震
	7月 打ち寄せる波を見守る	GPS波浪計	港湾
	8月 縦から横への発想転換	ラテナビウォール	地盤環境